

夏どり西洋野菜の栽培実証(川内村)

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 西洋野菜の栽培実証

担当者名 根本知明

I 実証技術の解説

1 要旨

川内村における西洋野菜3品目(トレビス、フェンネル、カーボロ・ネロ)の夏どり栽培は、5月上旬に播種し6月上旬に定植すると、7月に収穫が可能であることを実証した。

- (1) トレビスは、5月2日に播種、6月5日に定植したところ、7月30日に収穫できた(図1)。可販率は81%、販売できないもの19%の内訳は、着色不良100%、変形68%だった(表1)。
- (2) フェンネルは5月2日に播種し、6月5日に定植したところ、7月30日に収穫でき、病害虫などによる被害も見られなかった(図1、表1)。
- (3) カーボロ・ネロは、5月2日に播種、6月5日に定植し、7月11日から収穫できた。しかし、カメムシによる食害が見られ、サンサンネットで被覆した区で12%、被覆しない区で20%であった(図1、表1)。

2 期待される効果

- (1) 阿武隈地域における野菜振興に活用できる。

3 活用上の留意点

- (1) 本実証では、元肥は $N:P_2O_5:K_2O=1.4:1.4:1.4$ (kg/a)を畝内施用(高畝マルチ栽培)とし、栽植様式はトレビスおよびフェンネルは畝間100cm×株間30cm(330株/a)、カーボロ・ネロは畝間100cm×株間50cm(200株/a)とした。
- (2) 西洋野菜は、登録農薬が少ないため、耕種的防除などを組み合わせた病害虫対策が必要である。
- (3) 収穫の目安は、トレビス球径10cm以上、フェンネル鱗片10cm以上、カーボロ・ネロ葉長約30cmとした。(図2)。
- (4) 栽培期間が高温になる場合、トレビスは着色不良などによる品質低下が懸念されるため、定植時期を早めるなどの対策が必要である。

II 具体的データ等

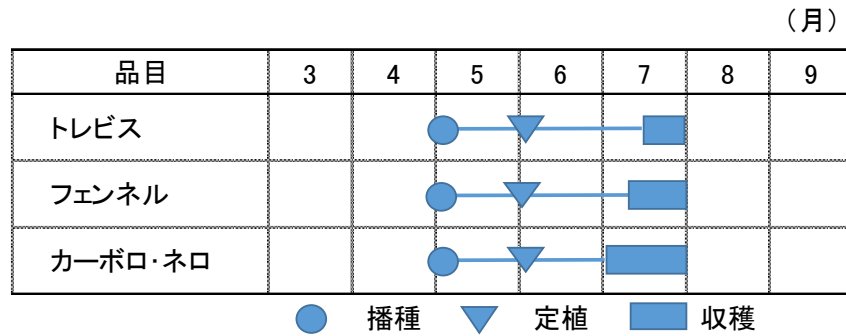


図1 川内村における夏どり西洋野菜の栽培暦

表1 西洋野菜の夏どり栽培の可販率

品目	被覆の有無	可販率[%]	備考
トレビス	無	81	生理障害19%(内 着色不良100%、変形68%)
フェンネル	無	100	-
カーボロ・ネロ	無	80	虫害20%(カメムシ)
	有	88	虫害12%(カメムシ)

注1) 着色不良は高温による着色不足のもの、変形は芯の押し上げがあるものとした。

注2) フェンネルは、アブラムシの発生が見られたが、被害には至らなかった。

注3) カーボロ・ネロは、サンサンネットソフライト(目合1mm)を、定植から収穫前まで、トンネル被覆とした。



図2 収穫時期の西洋野菜(左:トレビス、中:フェンネル、右:カーボロ・ネロ(川内村))

III その他

1 執筆者

根本知明

2 実施期間

平成30年度

3 主な参考文献・資料

(1)「みやぎ発信型新規野菜の安定生産技術(トレビス)」平成25年度、宮城県農業・園芸総合研究所